

環境にやさしい暮らし円卓会議 第一回環境金融分科会 議事録

【開催日】平成23年10月19日（水）19：00～21：00

【開催場所】水俣市役所3階 会議室「秋葉」

【出席者】別添出席者一覧参照

【資料】

- 議事次第
- 席次表
- 委員名簿表
- これまでの環境モデル都市推進委員会及び円卓会議の内容について
- アンケート（水俣の産業を元気にするための基礎調査）調査票
- 資料1：環境金融について
- 資料2：アンケート調査結果の活用方法について
- 資料3：水俣産業連関表の活用について

【会議内容】

1. 開会あいさつ（担当：厚地部長）
2. 事務局・関係部署及びコンサルタントの紹介
3. 各委員自己紹介
4. 議題
 - I. これまでの環境モデル都市推進の取り組みおよび、みなまた環境まちづくり研究会の「報告書」概要について説明（担当：松木課長補佐）
 - II. 円卓会議の設置と役割（目的・目標）について説明（担当：松木課長補佐）
 - III. 環境金融分科会について説明（担当：岩崎参事、資料1参照）
 - IV. アンケート調査票の紹介および、アンケート調査結果の活用方法について（担当：岩崎参事、資料2参照）
 - V. 水俣市産業連関表の活用方法について説明（担当：岩崎参事、資料3参照）
5. 質疑・意見交換
6. 今後の進め方について確認
次回の開催予定日：11月24日（木）
※開催時間は後日連絡
7. 閉会のあいさつ（担当：松木課長補佐）

【質疑・意見交換の内容】

発言者	内容
澤村委員	<p>前年度の報告書はよくまとめられているが、今回、さらに企業アンケートを実施するということは、より細かく、詳細なデータを集めることになることと思うが、それによって、どこにどう投資すればよいか等、色々分かるという解釈でよいか。</p> <p>>応答（松木補佐）</p> <p>アンケートを実施することによって、市内産業の強いところ、弱いところが明らかになる。例えば、補助金等を投入して元気にすべきところ、投入したらどのように影響するかといった波及効果も明らかになる。</p>
澤村委員	<p>主に機械の販売業・修理業を営んでおり、主な商圈は水俣・芦北である。</p> <p>交通の便がよくなってきて、市外からの業者が参入してきており、競争が激しくなっている。</p> <p>一方、隣の出水市へ参入しようとしても、鹿児島県は、どちらかという閉鎖的な県民性もあり、苦戦している。</p> <p>ところが水俣市では、地元到手厚い感じが無い。もう少し、地元事業者を大切にしてもらえれば（優先するような支援があれば）、売上向上や雇用増加も実現可能かと考える。</p> <p>規模の大きい市外の相手と戦うときに、そういう悩みがある。</p> <p>>応答（松木課長補佐）</p> <p>確かに鹿児島県に出た場合、そのような機会が多い。調達を地元の企業優先で行うのも手段の1つである。</p>
澤井委員	<p>食農事業部で、新規に農業に取り組んでいる。</p> <p>中山間地において農業で食べていくには、広い土地の確保が難しいため厳しいところがある。</p> <p>水俣病の過去の経験を生かし、食に対する安全性に関して、「厳格な水俣基準」等を作り、水俣ブランドを確立することで販路を開拓できると考える。</p> <p>>応答（松木課長補佐）</p> <p>農業には、水俣病のイメージが付きまとう。イメージを打ち勝つような強いブランドを大切である。</p>
岩城委員	<p>現在、地元への貢献は低く、預貸率は色々な事情で年々減ってきており、33%であるが、ピーク時は50%、約100億円程度あった。</p> <p>中小企業に積極的に融資したいと考え、5人の営業体制で市内を回っているが、取引先は先行きを懸念して、投資を先送りする傾向にある。そのような理由で事業資金が伸び悩んでいる。</p> <p>融資は住宅ローンが中心となっている。</p>

<p>松永委員</p>	<p>環境分野への融資に関しては、大半の銀行が実施している。</p> <p>当行でも環境格付融資（100の評価項目から金利を優遇する融資）や、熊本県の信用保証協会のエコ制度資金など、様々な商品を取りそろえている。</p> <p>しかし、水俣市では環境分野への投資ニーズが少ないと感じている。</p> <p>太陽光発電設置に関する日本一手厚い補助制度も行っているにも関わらず、それ程投資が進んでいない。</p> <p>環境関連分野への投資需要が果たしてどれだけあるのか。</p> <p>預金を市内で循環させることも大事だが、もともと、人口が減っている地域であるため、インフラ整備、新幹線の優位性の活用などを活用して、外部にもっと発信して、外部から呼び込むことを考えることも大事ではないか？</p>
<p>小川委員</p>	<p>預金が多い事も原因するが、水俣市内の金融機関（支店）では肥後銀行が最も預貸率が低いだろう。地域の資金が水俣・芦北に利用されていないのも現実である。</p> <p>現在、人口は減っているが、お金を使って企業が元気になり、雇用が改善すれば、人口も増加するだろう。</p> <p>域外の企業を呼び込んで、地元からの融資も増やして、産業を活性化させる必要がある。</p> <p>一方で、域内の企業を元気にすることも大事であり、地域の金融機関の融資も必要だが、企業が使いやすいような制度が大事。弊行も、いろんな環境関連の融資商品を取り揃えているが、利用率が伸び悩んでいる。</p> <p>制度融資は、まだ50件の利用実績しかない。ハイブリット車購入に活用できる融資制度もあるが、PRが足りないのか、あまり利用されていない。</p> <p>市民にもっと投融資制度を使ってもらえるように工夫する必要があるだろう。</p> <p>金融機関が融資をする際の原資は預金であるということからリスクをとれないため、総合的に判断して融資が難しい場合がある。行政との連携などにより、金融機関が融資をしやすい制度を作っていく必要がある。</p>
<p>松木課長補佐</p>	<p>市と金融機関が連携した取り組みイメージはどんなものが考えられるか？</p> <p>例えば環境定期預金等。個人が参加できる金融制度に水俣市も取り組んでいきたいと考えている。</p> <p>現在、水俣市ではごみの分別処理をし、その収益を還元金として分別量に応じて各自治体に還元している。しかし、「燃やすごみ」の量は減らず、その約半分は「資源ごみ」であり、約9,000万円に相当すると言われている。</p> <p>ゴミの分別を推進し、燃やすごみを減らすインセンティブとして、ゴミのリサイクル量（ゴミの減少量）に応じて預金金利が上乘せされるような、環境定期預金を作り、利子の上乗せ分は市から利子補給を行うといったことは可能なのだろうか？</p> <p>>応答（小川委員）</p> <p>プラスアルファ部分（預金上乘せ分）の原資が、水俣市から出るのであれば対象者を特定した商品開発は可能だろう。金融機関自らが、一部の地域の預金者を対象にした商品を作ることは厳しい。</p>

松永委員	太陽光発電施設や水力発電施設など、地域の電力をまかなうための発電施設等を作る事を目的としたファンドに対して、売電を返済財源として、銀行が融資するといった事はできるかもしれない。
丹野委員	<p>これまでに、まちづくりのファンドの組成に携わってきた経験から、金融にあまり大きな期待を持たない方が良く考える。金融機関もお金が余っていて困っているが、金融は受け身であり、まず水俣で環境ビジネスを担う企業（投融資の相手）を育てる事が大事である。</p> <p>様々な環境金融の事例があるが、他の地域で導入されているからといって、水俣でも導入できるわけではない。まずは、産業連関表で水俣の産業構造の実態を把握し、それを受けてどんな支援ができるかを考える必要がある。</p> <p>最初に金融商品を作ることでPRにはなるが、それ以上の効果を期待できるのだろうか。</p> <p>産業は、自然発生的に活性化しない。新しい産業を作っていくことを、行政が主導していかないといけない。たとえば、特区のような形を作って大きな事業を外部から呼び込んだり、環境研究センターを作ったりする取り組み必要である。環境ビジネスをやる人は水俣に集まるようにする必要がある。原発問題を抱える福島では、特区を作って、企業に対する減税措置等に取り組んでいる。</p> <p>民間の自助努力だけでは難しく、強力な推進体制や、仕掛けを作る必要がある。公共が前面に出て事業をする（産業の活性化に取り組む）れば、金融はそれを後押しする。</p> <p>東北を上回るぐらいの気持ちでやる必要がある。東北での復興の取り組みも水俣に応用してほしい。</p> <p>また、水俣市民の意識を高めていくことも大事であり、一つずつ地域でやれるものからしっかりやっていくことが大事である。太陽光発電やバイオマス発電事業は、電力の買い取り制度が確立しており、比較的先が見える分野なので、市民から市民ファンドという形でお金を集めてできると思う。</p> <p>ファンドができて、投資先がないと失敗する。対象事業を明確にしたうえで、ファンドを集めた方が良く考える。</p>

笹野委員	<p>環境未来都市の候補地に応募したことはとても良いと思う。</p> <p>産業連関表を作成することも非常に良いと思う。我が国の多くの産業クラスターの調査を見てきたが、この規模の都市で産業連関分析までやるのはみたことが無い。この調査が他地域の先行事例になることも考えられる。そのためにも、回収率と精度を極限まで高めることが重要であり、企業にできるだけ協力を依頼する必要があるだろう。</p> <p>「資料1：環境金融について」に掲載されてある金融商品の参考資料を1つ1つ見ながら、金融機関と市と企業で実現可能性を検討・議論する場があってもよいと考える。それぞれ非常に面白い商品であり、それぞれにリスクの取り方が違う。</p> <p>いろんな産業の方も会議に参加することが重要であると考え。</p> <p>産業振興と金融は Back to back の（密接な）関係にあるため、一緒に考えていく必要がある。</p> <p>水俣市内には、色んな産業の芽が色んなところにある。例えば、食と農、エコ住宅、デザイナーを呼び込めるインキュベーションセンター当がある。その他には、江口寿史のデザインを取り入れたご当地ナンバープレートの導入や、電動バイク等の導入も考えられる。</p> <p>「世界の環境都市みなまた」を一番の吸引力に、1つ1つの産業に取り組んでいくことが重要ではないかと考える。水俣版のエコシステムを作り込むことも良いだろう。1つ1つの取り組みで「世界の環境都市みなまた」のブランド価値を上げていくことが大事だろう。</p>
------	---

<p>植田委員</p>	<p>水俣で起きている、預貸率が低い・市内で資金循環がない、などといった悪循環の状況は全国的に起きている。この現状に対して金融側の対応を考えることも大事だが、地域の産業が元気になっていくことからスタートしていかないといけない。金融の受け手側を強くすることが大事である。</p> <p>何か1つ作り上げるのも大変だが、環境定期預金ができそうであれば、出来そうなところからどんどんやっていけばよい。</p> <p>以前、全国の自治体に対して、産業振興の中で何を重視しているかのアンケートをしたところ、7割の自治体が企業誘致と答えた。確かに、企業を呼び込むことも大事だが、全国各地で誘致に取り組んでいるため、誘致実現には相当の覚悟が必要である。</p> <p>産業連関表を作って、取引関係を見ることはいいことだと思う。</p> <p>また、産業連関表を分析し、波及効果の大きい産業に投資することは間違いではないが、アンケートの1%以下の部分にも着目しないといけない。</p> <p>以前、大阪市内の全製造業事業者（2万件）を対象にアンケートを実施した（回収8～9割）結果、航空機産業への参入を望む企業が百社程度あった。それは、全企業数の1%以下の企業の望みでしかなかったが、大阪市はそこに着目した施策を打ち、航空機受注プロジェクトは現在も続いている。このように、水俣市においても市内の新しい産業の芽や、保有技術の可能性を発掘し、その育成を支援していく事が重要である。水俣であれば10社あれば新しいことができる。その10社をどのように見つけていくかが大事である。全事業所にあたる覚悟で取り組んでほしい。</p> <p>>応答（価値総合研究所：青木）</p> <p>ご指摘の通り、個票ベースでアンケート回答をみて、水俣の企業の保有する技術を探って行きたい。</p> <p>また、産業連関表の作成にあたっては、取引の構造を把握する事に着眼点を置き、現在の水俣市の産業の強い部分・弱い部分や、産業の要素をとらえた調査・分析を行っていく。</p>
<p>松木課長補佐</p>	<p>地元企業、金融機関、有識者の意見より、現状の実態の大変さ、環境金融制度の構築の困難さがわかった。また、金融が先か、産業育成が先か、両方のバランスが大事であると考えている。</p> <p>できるところからやっていきたい。一つずつやっていくことが、大事だと考える。産業連関表の結果を踏まえて、対応策を考えていきたい。</p> <p>何からはじめれば、次のステップに進めるかについては、アンケート調査の結果から見出したい。アンケート集計結果を示し、今後、地元の企業を元気にするために環境金融、新産業、両面から考えていきたい。次の会議には、アンケートの集計結果を報告できると思う。</p> <p>産業誘致に取り組む一方で、地域の産業を作っていく、強くしていくということの両面が市の役割だと考える。</p>